

# 平成27年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立洛友中学校 )

## 3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成28年2月2日	評価日	平成28年3月15日
					評価者・組織	運営委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 <u>学校評議員</u>
1 確かな学力	自分が考えたことや感じたことを表現する力の育成 「昼・夜間部『交流の時間』」の充実	各教科で発問を工夫し発表の機会を増す。年3回の学校公開日と授業	話す・聞くなどの態度の変容。授業中に発表する機会が増えたか。	生徒の発表する機会が増え、主体的な学びにつながった。	⇒ 分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
2 豊かな心	挨拶の励行 人権の大切さを考える活動の実施 日本の伝統文化を知る体験活動の実施	登下校時に校門で挨拶を実施(夜間部の下校時は全教職員で実施)。 人権標語入りカレンダーの作成と地域への配布。 外部講師を活用した茶道、陶芸、和装などの取組。	挨拶時の会話・表情から、充実した学校生活を送っているか。 人権標語入りカレンダーを作成し、地域に配布し、自己有感を日本文化の理解が進んだ。	豊かな表情で挨拶し、充実した学校生活を送っている。 人権標語入りカレンダーを作成し、地域に配布し、自己有感を日本文化の理解が進んだ。	⇒	・発問の工夫により、発表する機会が増え、主体的な学びにつながった。・発表内容の質的な高まりを目指して、教材・発問の工夫・改善に取り組んだが、まだあまり効果は現れていない。語彙数が増え、作文に意欲的に取り組み、表現力が向上した。 ・継続して、本時の目標に迫れるように教材・発問を工夫・改善していく。 ・系統性があり効果的な「交流の時間」を目指して、さらに検証と実践を重ねていく。 ・家庭でも1日の振り返りをして、日記を書くように勧め、書く力の向上を図る。	⇒	・発問の工夫により、生徒の発表回数や内容が高まっているようだ。 ・先生はじっくり丁寧に指導しているが、少し話しそぎがあるのではないか。
3 健やかな体	健康観察の励行 健康相談の実施	毎日、養護教諭と担任が連携して、健康観察の実施。 校医や関係機関と連携した健康相談や保健指導の実施。	心身両面における変化の把握。 持病、食事、就寝などのアンケートを実施。家族からの相談にもつながっている。	心身共に課題のある生徒の変化に気付き、適切な対応につながって健康相談や保健指導が、生徒の健康管理につながっている。	⇒	・健康観察の励行により、早期の発見・対応ができる。 ・薬の正しい知識や、作用と副作用について学習する必要がある。	⇒	・私たちも生徒のみなさんを見かけたら、積極的に挨拶をしていく。 ・人権標語入りカレンダーをいただいたたら、感謝をこめた感想文を届ける。 ・地域の方々の高い専門性を生かした取組が充実している。
4 独自の取組	日本語教室の充実 情報発信の充実	課内・課外で日本語教室を実施。 ホームページを積極的に更新。	課外の日本語教室に参加する生徒が主体的に取り組んでいるか。 学校ホームページへのアクセス数。	課外で日本語を、主体的に学ぶ生徒が増えた。 PTA組織が無く、生徒数も少ないが、少しずつアクセス数が増えて	⇒	・課内・課外の日本語教室で主体的に学び、コミュニケーション能力が向上した。今後も社会生活に役立てられるように取り組む必要がある。・リアルタイムでHPを更新したことで、アクセス数は少しずつ増加した。認知度を上げるために積極的発信が必要	⇒	・日本語教室で取り組んでいる内容を他の教員が把握し、各教科・領域の教材づくりに役立てる。 ・HPの内容を充実させ、生徒や保護者、地域の方々に広報し、認知度を上げていく。
								・日本語を学ぶことで、社会とつながるスキルアップが図られている。自分の考えを人に話すこと、自尊感情の高まりにつながる。 ・定期的な学校だよりの配布により、学校の様子がわかりり難い。
								・茶道を通して、夜間部の生徒とコミュニケーションを取り、日本語習得の一助を担いたい。 ・郁文学区にある洛友中学校のHPを見てもらえるように地域の皆様にPRするで、頑張って更新して下さい。

## 4 総括・次年度の課題

・確かな学力の定着に向けた取組として、各教科・領域で発問の工夫がなされ、生徒の発表機会が増え、主体的な学びにつながっていると教員が感じ、関係者からも評価をいただいた。今後も、さらに発問の内容や方法を研究して改善を図っていく。
・豊かな感性をもっている夜間部生徒と内面を表現しにくい夜間部生徒をうまくマッチングさせることで、夜間部生徒の感性を育む一助にしたい。あらゆる教育活動の場面で、人権を大切にした教育活動を今後も実践していく。
・心身に課題のある生徒が多い中で、日々の健康観察が異変の早期発見、心の通った指導につながっていることを教員が感じ、関係者からも評価をいただいた。今後も、継続して見逃しのない健康観察を実施していく。
・不登校を経験した夜間部生徒と様々な事情で義務教育を修了することができなかった夜間部生徒が共に学ぶ本校の存在意義を、生徒や保護者、地域の方々や教育関係者によりよく発信し、さらに認知度を高める。